

ワーケーションの推進

～松山で新たなつながりをつくろう～

アジェンダ

- ① メンバー紹介
- ② 提案概要
- ③ ワークーションとは？
- ④ なぜワークーションなのか
- ⑤ 提案

1. メンバー紹介

1. メンバー紹介

高崎経済大学4年 松井滯児

慶應義塾大学3年 明賀優介

青山学院大学3年 青野純也

東京学芸大学2年 今村誠宏

2. 提案概要

提案概要①

ゴール

松山で新たなつながりをつくる

これまでの松山

観光地としての松山

これからの松山

越境学習地としての松山

地域資源の切り取り方を変容していく
松山で松山内外の人々との人間関係をつくる

提案概要②



提案

「中島における地方創生インターンシップ」

～ほしふるテラス姫が浜を拠点に中島の地域資源を活用した越境学習プロジェクト～

開催方法：松山市と地方創生を志す企業が連携

対象：地方創生に関心がある学生

例：中島トライアスロン

- ・参加者とその家族、島人が一つになるイベント

- 中島トライアスロンという非日常の体験をとして松山市民と交流

- インターンシップをきっかけに毎年参加してくれるようになる可能性

= 関係人口の創出



3. ワークেশションとは？

3 - 1. ワークেশヨンの定義と課題

ワークেশヨンの一般的な定義

**「Work + Vacation」
国立公園等で遊び、働くという新たなライフスタイル**

出典：環境省（2020）令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業及び国立・国定公園、温泉地でのワークেশヨンの推進事業

課題

**観光の延長
「はたらく」「ビジネス」の観点から程遠い**

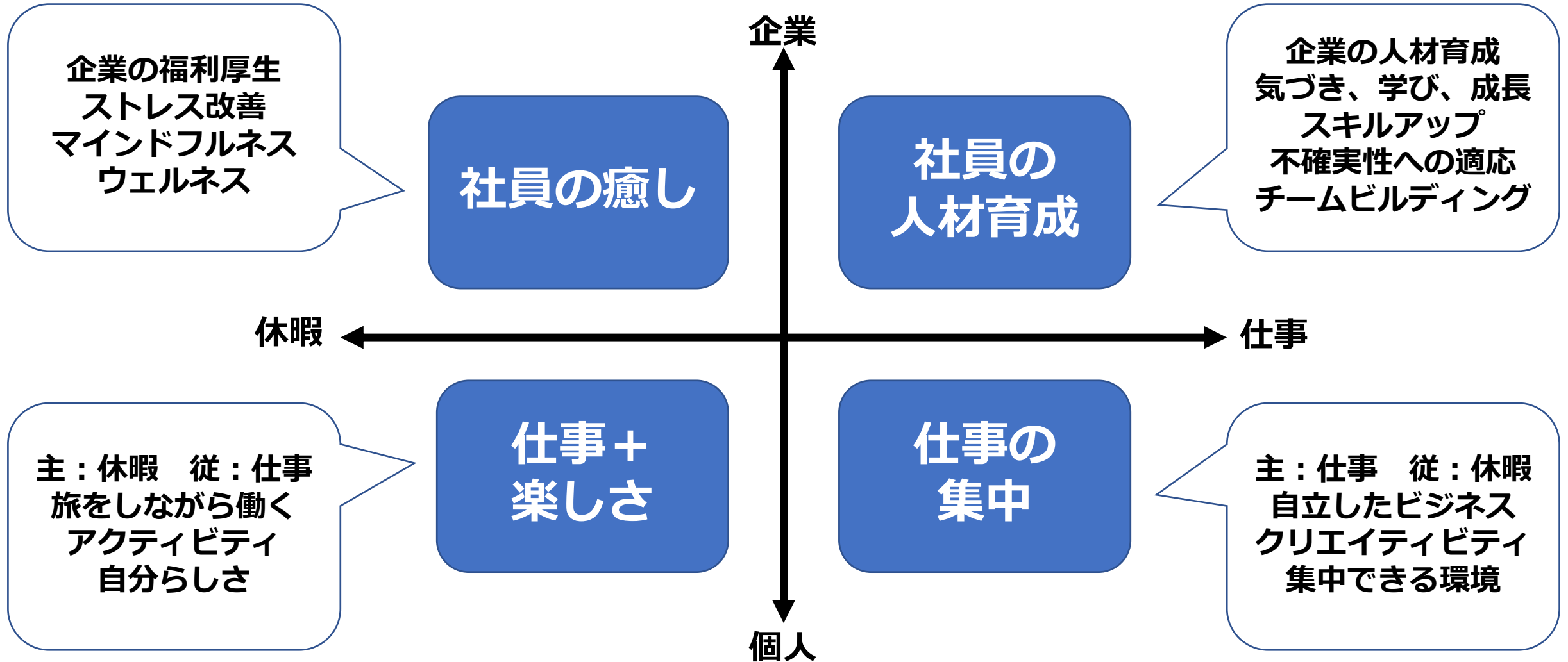
3 - 2. 私たちが提案するワーケーション

今回提案するワーケーション

**「Work + “ation”」
観光や遊びではない「本当に役立つワーケーション」**

例 : motivation, relaxation, education

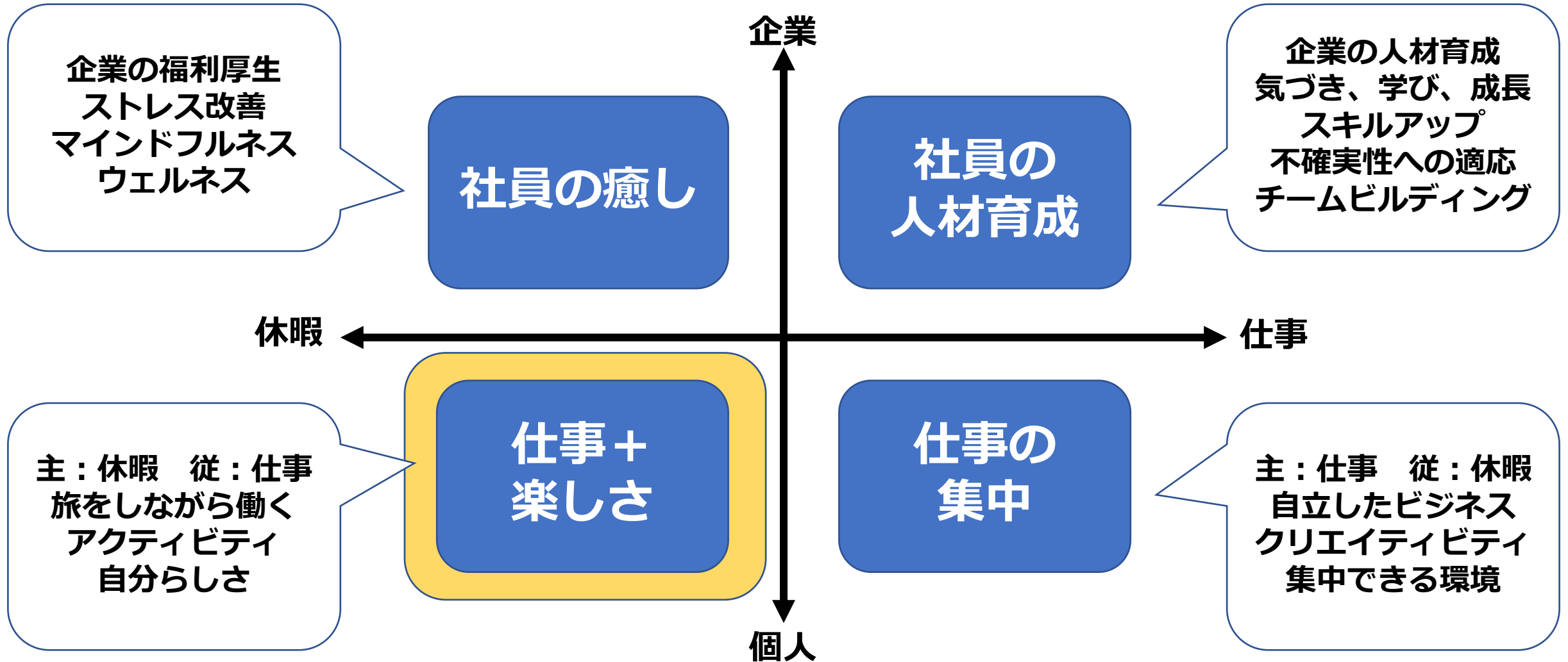
3-3. ワークーションの分類



ITメディアonline (2020) 「バケーション」ではないワークーションを 妙高市が提供する、仕事に役立つワークーションの形とは？

<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2010/27/news001.html>

3-3. ワークーションの分類



3 - 2. 私たちが提案するワーケーション

今回提案するワーケーション

**「Work + “ation”」
観光や遊びではない「本当に役立つワーケーション」**

例 : motivation, relaxation, education

3 - 4. 先行事例



①和歌山県 南紀白浜

- ・ 日本初のワーケーションの聖地
 - ・ 通信環境面で先進地
 - ・ NICTと「NerveNet（ナーブネット）」と呼ばれる耐災害ネットワークの実証実験中。
 - ・ 平時は「Shirahama free Wi-Fi」として無料開放
- 通信環境の整備が進んでいるため、大企業から選ばれている
例：NTTコミュニケーション、salesforceなど

白浜×ワーケーション/白浜町ホームページ

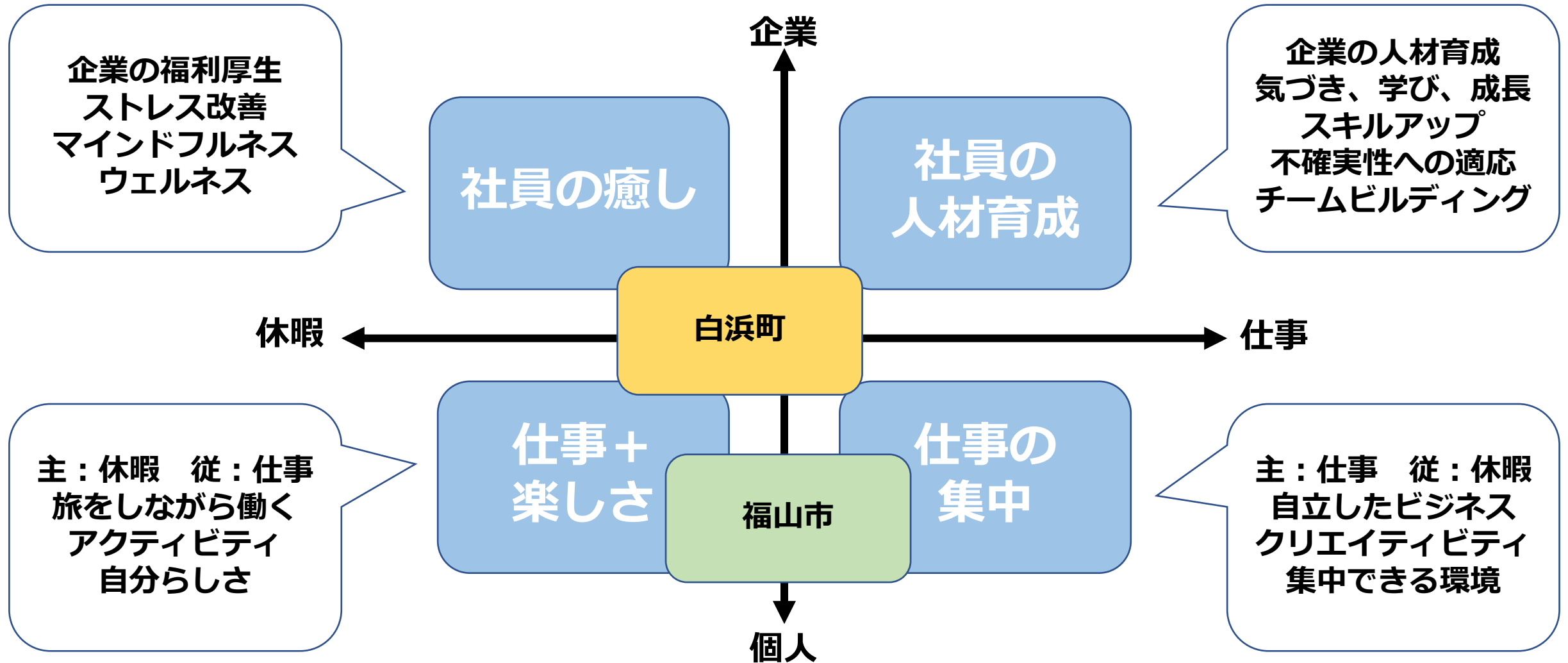


②広島県福山市

- ・ テレワークをしつつ、瀬戸内ならではの休暇など非日常を体験・満喫していただける環境を整備。
 - ・ 民間の宿泊施設やコワーキングスペースと連携。
 - ・ 自然豊かでレジャー・休暇を楽しむ環境が整っている。
- 都市圏から離れることで生まれるITの可能性を追求
福山ワーケーション事業のモデルケースづくり

福山市HP（2019）福山市ワーケーション事業実施状況

3 - 5. 白浜町と福山市のポジショニング



ITメディアonline (2020) 「バケーション」ではないワーケーションを 妙高市が提供する、仕事に役立つワーケーションの形とは？

<https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2010/27/news001.html>

4. なぜワーケーションなのか

4 - 1. なぜワーケーションなのか

これまでの松山

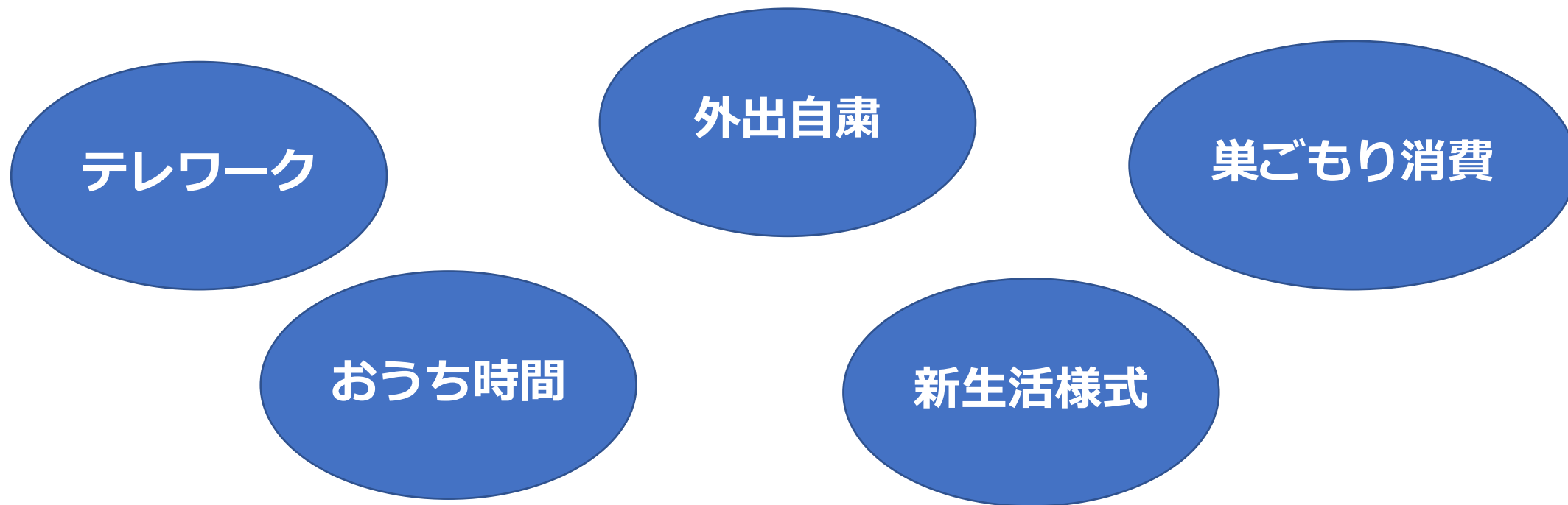
交流人口の獲得、既存の関係人口の獲得

- ・ 観光などで松山内外の人に松山と交流を持ってもらおうとする方向性
- ・ UターンやIターンなど地元にはゆかりのある若者を地元に戻そうとする方向性
- ・ 移住支援など松山に人間関係をもたない人に松山に住んでもらおうという方向性



東京一極集中の是正

4 - 2. コロナ禍による外部環境の変化



- ・働き方と働き方への考え方の変容
- ・地方への脚光

東京一極集中の是正を目指す最後のチャンスかもしれない

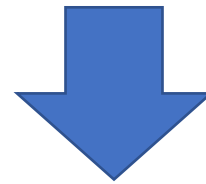
4 - 3. Withコロナ時代に目指すべき姿

これからの松山

地方と都会の持続的な関係

- ・ 都会の人が都会でも地方でも働く（地方副業）
- ・ 地方企業が都会の企業と働く

交流人口ではなく新規の関係人口の獲得も必要



東京一極集中の是正

このための手段がワーケーション



5. 提案

5 - 1 . 提案①

ゴール

松山で新たなつながりをつくる

これまでの松山

観光地としての松山
交流人口の獲得
既存の関係人口の獲得



これからの松山

越境学習地としての松山
新規の関係人口の獲得

地域資源の切り取り方を変容していく
松山で松山内外の人々との人間関係をつくる
地方と都会の持続的な関係

5 - 2 . 提案②



提案

「中島における地方創生インターンシップ」

～ほしふるテラス姫が浜を拠点に中島の地域資源を活用した越境学習プロジェクト～

開催方法：松山市と地方創生を志す企業が連携

対象：地方創生に関心がある学生

例：中島トライアスロン

=参加者とその家族、島人が一つになるイベント

→中島トライアスロンという非日常の体験をとして松山市民と交流

→インターンシップをきっかけに毎年参加してくれるようになる可能性



= 関係人口の創出

5 - 3 . 先行事例



→ インターンシップ参加後にも、地域とのかかわりを持ち続ける学生も多い

6. おわりに